

No.175

公民館だより

令和4年7月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

年寄りの自覚と若者の自覚

安心・安全な住みよい由良地区のために

由良地区公民館長 千坂 幸雄

新型コロナウイルス感染症パンデミックは今も続いています。

そのことで、この2年間、行動制限があり人々のつながりが希薄になったことで心や体に、そして、地域に元気が無くなってきた気がします。

今は新型コロナウイルスに対する研究も進み、ワクチン接種や治療薬の開発などで重症化するものが少なくなりました。そして人々はそのような行動をすれば予防できるという知識も身につけるようになりました。4月から政府においても宮津市においてもウィズコロナの生

活でコロナ前の状態に戻していく方針に舵を切りました。由良地区公民館も由良ヶ岳登山、お大師さんウォーキング、芝桜植

え体験と行事を行いました。人々の常からのつながりは、災害等何かあったときには大きな助け合いになり安心をもたらします。

このつながり作りのために、年寄りとはどんな自覚を持ち、若者とはどんな自覚を持てば良いのだろうか。私の考えを述べます。

(ここでいう年寄りの年齢は60歳以上、若者は59歳以下)

由良地区の人口構成はおおよ

そ60歳以上が60パーセント、20歳以上59歳以下が35パーセント、19歳以下が5パーセントです。今のままでは由良地区の未来はどうなるのでしょうか。年寄りは若者に未来を託さなければなりません。年寄りは若者に自分が得た知識や技術を継承するのだ。という自覚が必要でしょう。

もう待たないです。若者は今のうちに祖父母や親、地域の方からいろんなことを継承してほしいと思います。そして、由良地区の未来を切り開いてください。

若者は仕事場と家との往復だけの生活にならず、広く世間を見てください。広く付き合いをしてください。きつと仕事に家庭に役立つことがわかります。大人が変われば子どもも変わります。

駅前芝桜植え体験には、50名近くの方の参加がありました。その中に子どもを連れてご家族が多く参加され、小学生や就学前の小さな子どもの参加が14名もあり、子どもたちの多さにこ

れが由良地区なのかとびっくりされた方も多くおられたのではないのでしょうか。由良地区の未来は明るいと前向きに考えて前に進んでいきたい。

「由良小学校閉校10年に

寄せて」

由良小学校校歌に三番があったことを知っていますか。私は小学校の時に一番と二番しか教えてもらっていません。

三 いざいざ我等諸共に

知徳を磨き體を練り

日本精神を鍛えつつ

皇国の民と進まなん

校歌は昭和10年に制定されている。三番は現行の憲法にもとるものである。という立場から歌われなくなった。

公民館だより第39号昭和51年(1975年)7月15日発行

由良の歴史をさぐる会

中西 夏江 文から

令和4年度の役員

由良地区公民館運営審議会委員 (順不同・敬称略)

団体名	氏名	団体名	氏名
自治連合会 会長	濱本 喜彦	栗田中学校PTA 地区委員	中西 正直
脇自治会 会長	竹内 義幸	栗田小学校PTA 会長	山本 隆教
宮本自治会 会長	枘岡 典幸	由良松寿会 会長	山田 耕助
浜野路自治会 会長	濱野 憲二	由良観光組合 組合長	田村 光広
港自治会 会長	山田 康夫	由良実業会 会長	岡本 康一
下石浦自治会 会長	新宮 恒一	由良子供会連絡協議会 会長	堤 郷介
上石浦自治会 会長	山下 良一	由良地区公民館 館長	千坂 幸雄
前公民館長	磯田 充亮	由良地区公民館 主事	山下 まさ代
人権擁護委員	大森 日向子		

由良地区公民館役員 (順不同・敬称略)

公民館長 千坂 幸雄 主事 山下まさ代

地区	分館長	文化部	体育部	備考
脇	濱本 喜彦	◎濱本 喜彦 岡本 重幸	松本 純也 北野 晃次	
宮本	川端 利宏	坂根 康則 山口 泰輝 川端 利宏	岸田 秀章 牛田 洋美	
浜野路	中西 泰之	前田 敏哉 中西 保	吉成 博一 吉田 有紀 森田美砂子 中西 泰之	講師
港	◎中西 達也	○川崎 尚子 中西 達也	山田 崇 小室 和子	
下石浦	○山下 昇	蒲原 順一	岸田 誠 森 葵	
上石浦	山下 正貴	山下美千代	野村 雄治 山下 正貴	
注 ◎印…分館長は代表 各部は部長 ○印…分館長は副代表 各部は副部長				

令和4年度の事業計画

文化部

期 日	行 事 内 容
年3回(7月・11月・3月)	公民館だより発行
11月6日(日) 準備:4、5日	由良地区文化祭(会場:はまの子体育館 由良小閉校10周年を記念したコーナーを作る)

体育部

期 日	行 事 内 容
4月29日(金) 8:30	第54回由良ヶ嶽登山(予備日 5月3日)
5月22日(日) 10:00	芝桜を植えよう (芝桜体験 駅前通の桜幹周辺 予備日5月29日)
未定	ニュースポーツ

子どものびのび体験活動

期 日	行 事 内 容

健康広場(ウォーキングを中心に)

期 日	行 事 内 容
5月15日(日) 9:00	如意寺・お大師さん道ウォーキング
10月2日(日) 9:00	由良郷土資料館見学～由良湊ウォーキング
11月27日(日) 8:30	七曲八峠ウォーキング
1月～3月	卓球教室(土曜日 連続講座)

由良ヶ嶽登山道整備作業 4月19日(火) 8:30 公民館、自治連、観光組合

グラウンド除草作業 9月4日(日) 17:00 公民館、自治連、地区民

※昨年度のアンケート結果をふまえ、老若男女が楽しく参加できる事業を役員会で検討し上記のように計画しました。多くの方の参加を望みます。

行事報告

主事 山下まさ代



北前船ウォーキング

実施日 3月6日(日)
参加者 8名

前年度の事業です。2度も延期になったが、実施できた。由良の歴史をさぐる会の加藤正一さんを講師に迎え、北前船資料館から如意寺、旧由良郷土館、奈具神社、金毘羅神社等をまわり由良の歴史の学習をした。新たに整備された由良郷土資料館も含め今年度も計画をしているので、ぜひご参加ください。



由良ヶ岳登山道整備作業

実施日 4月19日(火)

自治連、観光組合の方々13名にお世話になり実施。今年は積雪の影響か山頂には余り草が生えてなく、倒木等の処理を行った。また、山頂から下山し登山道の点検、整備も分担して行った。
大変お世話になりました。

第54回 由良ヶ岳登山

実施日 5月3日(祝)
参加者 44名
(内中学生以下12名)

当初予定していた4月29日は天候悪化の予報のため5月3日に延期。3年ぶりの実施である。今回は新型コロナウイルス感染

拡大防止に配慮し由良地区および栗田地区のみに呼びかけた。
・実家が由良地区や栗田地区という家族の参加(遠方では尼崎市や京都市)
・自分で4合目までと目標をたて、目標通り実行した小学1年生の参加者
・はじめは7合目までと考えていたが頂上まで登りきった70歳代の参加者
・「すごくしんどかったが、頂上での眺めが絶品」と感想を伝えてくれた参加者等々
達成感と頂上からの眺めに満足された参加者でした。



お大師さん道ウォーキング

実施日 5月15日(日)
参加者 7名

如意寺で、西国八十八か所供の碑(天保)とお大師さん1番を拝み、由良ヶ岳にあるお大師さん道へ出発。東山のお大師さん2番から46番を拝み、西山の

47番から87番を拝んだ。最後八十八番のお大師さんに会いに如意寺に参った。



参加された方の中にはお賽銭を八十八か所供えていた方もいた。

以前には如意寺のお祭りのときにおはぎをお大師さんに供えたそう。糸で編んだ前掛けがお大師さんにかけられて



いるが、今も編んでおられる方がいると聞いた。いつまでも地域で大事にしていきたい。

柴桜を植えよう

実施日 5月22日(日)

参加者 46名

(内 子ども14名)

初めての試みであったが、由良駅前通りの桜の木の幹20ヶ所に柴桜を定植。子と親、孫と祖父母、ご夫婦など家族そろっての参加が多くあった。また、安寿の里の職員さんや、浜野路夕月サロンの方々も一緒にお世話になり、和気あいあいと実施できた。自主的に軽トラックで苗や水を運搬していただいた地域の方たちの協力もあり、おかげで250本の苗を植えることができた。特に子どもたちが暑い中よく頑張ってくれた。来年の開花が楽しみです。

作業する子どもたち



令和3年度 由良地区公民館 決算報告書
一般会計(自治会協力金)

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
繰越金	485,395	485,395	0	前年度より
公民館費	506,880	486,720	△ 20,160	120円×12月×338戸
各種補助金	0	0	0	
雑収入	5	6	1	預金利息
合計	992,280	972,121	△ 20,159	

支出の部

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
会議費	35,000	31,044	△ 3,956	お茶 役員用ボールペン等
事務費	15,000	10,427	△ 4,573	ファイル、マグネット玉 宛名ラベル用紙等
旅費	70,000	27,158	△ 42,842	館長、主事旅費
通信費	2,000	1,754	△ 246	公民館だより郵送料
文化部費	100,000	0	△ 100,000	
体育部費	150,000	6,518	△ 143,482	手提げ袋 アンケート用封筒
助成費	80,000	54,000	△ 26,000	10団体活動助成費
渉外費	45,000	4,000	△ 41,000	保護観察協会会費 公民館掃除謝礼
慶弔費	15,000	0	△ 15,000	
備品費	270,000	286,050	16,050	屋外掲示板 丹後写真集 ふるさとNEXT、時計
子供活動費	10,000	0	△ 10,000	
消耗品費	10,000	5,581	△ 4,419	電池、七曲八峠下見、ウォーキング参加者用等
施設管理費	40,000	15,000	△ 25,000	
予備費	150,280	0	△ 150,280	
合計	992,280	441,532	△ 550,748	

差引残高 530,589円 は次年度に繰越します。

令和4年3月31日

由良地区公民館 館長 千坂 幸雄 ㊟

会計監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

令和4年4月4日

由良自治連合会 会長 藤本 長壽 ㊟

由良自治連合会 会計 森脇 誠 ㊟

※2年続いて新型コロナウイルス感染防止のため、予定通り事業を実施することができず、予算も予定通り執行することができなかった。屋外掲示板については予定通り設置し活用している。

令和4年度 由良地区公民館予算書
一般会計（自治会協力金）自 令和4年4月 1日
至 令和5年3月31日

収入の部

(単位：円)

科 目	3年度予算額	4年度予算額	増減額	備 考
1 繰越金	485,395	530,589	45,194	
2 公民館費	506,880	491,040	△ 15,840	120円×341戸×12月
3 各種補助金	0	0	0	
4 雑収入	5	5	0	貯金利子他
合 計	992,280	1,021,634	29,354	

支出の部

科 目	3年度予算額	4年度予算額	増減額	備 考
1 会議費	35,000	35,000	0	お茶、役員用ボールペン他
2 事務費	15,000	15,000	0	プリンターインク、ファイル他
3 旅費	70,000	50,000	△ 20,000	館長、主事
4 通信費	2,000	2,000	0	公民館だより郵送料他
5 文化部費	100,000	100,000	0	
6 体育部費	150,000	100,000	△ 50,000	
7 健康広場費	0	20,000	20,000	
8 助成費	80,000	70,000	△ 10,000	各活動クラブへ
9 渉外費	45,000	45,000	0	宮津市公民館、松寿会、敬老会他
10 慶弔費	15,000	15,000	0	
11 備品費	270,000	300,000	30,000	展示パネル3枚他
12 子供活動費	10,000	30,000	20,000	
13 消耗品費	10,000	10,000	0	乾電池等
14 施設管理費	40,000	50,000	10,000	公民館等施設管理費他
15 予備費	150,280	179,634	29,354	
合 計	992,280	1,021,634	29,354	

令和4年4月30日

由良地区公民館
館長 千坂 幸雄

※令和4年度予算書の特徴点

- ①事業の見直しと共に、多くの参加者に予算も還元できるよう文化部費、体育部費の見直し。
- ②健康広場費の新設
- ③文化祭用展示パネルの購入計画

可能性は無限大 栗田中生!!

栗田中学校 校長 藤原 英一

今年度の人事異動により、栗田中学校の校長として着任いたしました藤原英一と申します。栗田中学校の教育活動の一層の充実に向けて微力ではありますが、邁進していく所存であります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

現在、栗田中学校は46名の生徒（1年生12名、2年生17名、3年生17名）が在籍し、日々、学習活動や部活動に励んでいきます。年々生徒数は減少傾向にあります。一人一人が自分の目標に向かって確実に前進しているところではあります。

今年度は、栗田学院全面実施4年目、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）本格導入3年目の年でもあります。

栗田学院では、教育目標「未来を生きる心身ともにたくまし

い幼児・児童・生徒の育成」を達成するために、人権教育や道徳教育だけではなく、地域について学ぶ「ふるさとみやづ学」やボランティア活動を通して子ども達の心を育てること、また

幼児期の遊びから学校の体育や中学校の部活動までの中で、系統的に身体を鍛えることを大切にしていきたいと考えております。これらを学校運営協議会や地域コーディネーターの皆様と協働する中で、内容を充実させると共に、今年度は特に学院の取り組みについて広報を充実させていきたいと思っております。

これまで、地域の皆様から「子ども達の様子を見てみると、よく頑張っているように思う。でも一貫教育で、栗田学院でどのようなことをしているのかはよく分からない」というお声をい

ただくことがありました。

「地域とともにある学校づくり」を目指すためには、幼稚園や小・中学校が何を大切にして、何をしようとしているのかを知っていただき、お伝えすることで、地域の皆様と協働できると思っております。

さて、生徒達の活動では、3年生は昨年度末から準備を進めてきました広島・岡山方面の修学旅行、2年生は篠山方面、1年生は天橋立周辺での校外学習を無事に終え、それぞれの目的に沿った学びを得ることができました。何より、校外での学習が実施できる喜びを得ることができました。また、部活動においては新入生の入部により、各部活動の練習にも力が入ってきて、先輩としての在り方、後輩は先輩から学ぶ喜びを実感しながら頑張っています。さらに、5月に行われた阿蘇海一周マラソン大会（駅伝大会）では、全校生徒から練習参加を呼びかけ、取り組みの結果、見事総合3位を得ることができました。また、

オープンチームも出場することができ、栗田中学校から初めて2チームの出場を果たすことができました。次は丹後ブロック陸上大会に向けて。全校で盛り上がりを見せて取り組んでいるところです。

このように文化面、運動面において栗田中学校の生徒の可能性は無限大です。生徒の可能性を引き出すために日々の教育活動に対して積極的に取り組み、子どもと教師、保護者・地域の皆様にも協力していただき、一体となって、前向きに「やってみよう」という「挑戦」の心を大切に、今年度も歩みを進めていきたいと思えます。

これまでと同様に栗田学院栗田中学校に対しまして、深いご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。



由良地区の皆様ありがとうございました

前由良自治連合会 会長 藤本 長 壽

令和元年より三年間由良自治連合会の会長に携わり、その期間中、地域の皆様には大変お世話になりました、ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

由良地域も少子高齢化が急速に進み、バス路線も廃線となる中、就任当初より住民の「脚」の確保に自治連合会と行政で協議した結果、やっと由良有償運送の実施が令和二年十月よりスタート出来ました。

今後、もおおいにご利用いただき、少しでも生活上の一助になれば幸いです。

コロナウィルス感染症が全世界にまん延し、東京オリンピック・パラリンピックでも様々な対策が取られる中で一年延期され令和三年に実施されたことは皆様の記憶の中に残っていると思います。

当地区におきましても、この感染症のため、様々な行事や取組が中止や変更になりました。

敬老会も従来は、はまの子体育館で参加できる方々に、催し物と食事をしていただいていた

ましたが、この感染症で以前のように集団で集まることが出来なくなり、自治連合会と敬老会実行委員会と協議の結果、新しい方法で敬老会のお祝いが出来ないかと考え、地区自治会長・民生委員・婦人部の皆様にご協力

いただき、由良地区の七十五歳以上の全員の皆様にお祝いのお菓子等をお届けすることが出来、結果とし多くの皆様よりお礼のお言葉をいただきました。

ここ数年、当地区におきましては水害で大きな災害に見舞われること無く経過していますが、水害に対する備えとし、由良地

区堤防景観検討委員会で由良川鉄橋から同志社中学校臨海学舎下までの堤防建設と由良川鉄橋から上石浦地区までの護岸積み上げが、本格的に国土交通省より計画と実施されることとなり、すでに港地区と浜野路地区では工事が実施され、安心と安全な地域づくりの方向が示されました。

由良幼稚園が休園になり九年が経過し、このまま放置したま

まではいかず、昨年十一月に「由良幼稚園の今後についての意見交換会」を行い、園舎を由良のために有効活用し、今後由良地区の活性化に繋げていくことを確認しました。

力不足ではありましたが、地域の皆様のご理解とご協力をいただき、三年間務めることが出来ましたことに心より感謝し、お礼を申し上げます。

これからの由良を考えて

由良自治連合会 会長 濱本 喜彦

今年度から、由良自治連合会会長の大役をお受けする事になりました濱本喜彦です。地区の皆様方のご協力を得ながら微力ではございますが、少しでもお

役に立てれば幸いと存じます。コロナ禍の影響を受け再度見直しを余儀なくされているのが現在の我々の周りの状況であると考

えまます。そこで、私は由良自治連合会が取り組むべき行事を大きく3つに分けて実行していこうと考えています。まず、季節を大きく春・夏・秋と考えて、主に3

行事ではありますが、昨今のコ

つのイベント及び行事活動に絞り込み、皆さんとともに取り組んでいきたいと考えております。春は、桜満開の下の由良駅前を中心に執り行う桜祭り。

夏は公民館様の盆踊り大会と合体して祭りを盛り上げ最後にささやかではありますが、打ち上げ花火を観て老若男女が一緒に過ごす由良ふるさと祭り。

由良地区のお年寄りにお集まりいただき、楽しい時間を過ごす敬老会。これら3本柱を軸として、由良自治連合会は公民館様や由良実業会様や由良観光組合様といった由良地区の方々と一致団結して取り組んでいきたいと考えております。

とくに、今年は十一月六日〜八日まで、庄内由良の方々（二〜三人程度）が由良に交流訪問にいらつしゃいます事もこの場を借りましてお知らせ申し上げます。

さて、我々は海・川・山に囲まれた都会には得難いすばらしい環境に囲まれた由良地区で生活している訳であります、そ

の恩恵を感じ得ないまま、日々の暮らしに追われる毎日を過ごしているのが現状だと思います。じゃあ、田舎を捨て、便利な都会に移り住もうか？それもまた

一見便利ではありますが、都会のごみごみとしたひたすら時間に追われる毎日を今さら過ごすのか？これも躊躇するところだと考えます。では、このままで

いいのか？と考えていくとやはり何かを仕掛けていかなければならない気がします。これまでの行政に頼りっきりの要求一辺倒の我々では、これからの由良を変える事は出来ないと考えます。つまり、自分たちで由良を変えていく、住み良い豊かな村

に変えて、みんなが老若男女が皆笑って過ごせる由良を創っていく。これまでたくさん先輩達もやはり思いは同じ思いであったと自治連合会の会長に就いてみて改めて感じておる次第であります。

とにかく、私一人では何も出来ません。ただ、私の立場は常に何が将来の由良にとって必要

なものなのか？を考え、勉強し、そしてそれらの思いを皆で考え皆様に伝えて少しずつ実現して行く。これが、私の使命であると胆に銘じ自治連合会会長を勤め上げる所存でございます。どうか、地区の皆様方のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

最後に、私ごとで誠に恐縮なのですが、私が常に心の中で呟いている言葉を2つ書かせていただきます。

『至誠にして動かざるもの』

いまだ此れあらざるなり』

『おもしろきこともなき世を』

おもしろく住みなすものは

こころなりけり』

令和3年度宮津市立小学校・中学校人権標語優秀作品

忘れずに みんな 誰かの 宝物 小学4年生

ちがうかも あなたの「ふつう」とあの子の「ふつう」 小学5年生

マスク越し 見えない表情 だからこそ 相手の気持ち 考えよう 小学6年生

由良が光り輝いていた時代 (18)

由良の歴史をさぐる会 加藤 正 一

新説「由良川で船囲」

前号で触れたが宝求丸(二〇〇石 七人乗り)大福萬覚帳(加藤家文書)によれば、一番下り

三月十日舞鶴由良とあり明らかに由良から出発し北へ向かっている。二番、三番と続き、四番登り十月六日小浜で終わっていることから、中距離廻船であるが由良で船囲いをしたことが解る。他の廻船についても前号に記した祈禱札の分布を考えると、三通りの考えができる。

①一般的に云われる大阪で船囲いし、出港にあたり讃岐の金毘羅さんで祈禱札を得る。

②由良を出港し北へ向かい北国で商売を行い、産物を仕入れて大阪に向かう。大阪にて北国で仕入れた品物を処理し、

翌年北国で商売をする為の商品を仕入れ、由良川で船囲いする為、由良までの航海安全を願う讃岐の金毘羅さんで祈禱札を得る。

③大阪に行かず通販のように地元にて前号で明らかにした寶求丸のように祈禱札を注文し取得する。

このように考えると、由良にある祈禱札の謎が解ける。すなわち前号の祈禱札の月分布、三ヶ月の祈禱札は①に、七ヶ月、すべてを含む不可解な祈禱札は③にあたる。明治時代の家内安全守護祈の祈禱札は③で由良から注文して送付してもらい手に入れたものとも考えられる。②については大阪に着き北国で仕入れたものを売りさばき、

その後翌年北国で商売する物を仕入れ、由良へ向い由良で船囲して、翌年北へ向かえば大阪を出るのと比べ早く北の消費地へ着き競合が少ないだけ条件良く有利に商売、仕入れができる。

依って由良の北前船も由良川で船囲いしたものもあつたことが考えられる。

典型的な北前船 「宝寿丸」(四五〇石 九人乗り)

明治二十六年で北前船の活躍も終わりに近い頃のものであるが、次ページの宝寿丸の航海日記(加藤家文書)を見てもらうと

三月十四日大阪木津川を出港

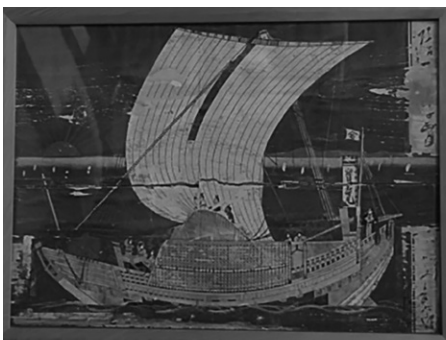
これは一般的に云われる大阪での船囲を表している。また江差、函館、太櫓、奥尻島、と明らかに北海道に行っていることが記されている。

十月二十七日岡山の下津井港に入港している。

北前船として大阪を出発、大阪に帰港する時期に合致していることが明記されている。

この航海日記には三月十八日琴平へ参拝とある。これは金毘羅さんであり学者、研究者の云われる教科書的な北前船にも関わらず祈禱札がない。絵馬もない。

宝寿丸のように祈禱札、絵馬が存在しないが北前船であることは残されている資料により明確である。絵馬や祈禱札の有無で北前船の存在有無は判断できないことが解る。



前年の船絵馬 (明治二十五年)

宝寿丸航海日記 (明治26年) (加藤家文書)

京都府立丹後郷土資料館「大海原に夢を求めて」より転記

<p>3月14日 大阪木津川を出港</p> <p>15日 播州江島に停泊</p> <p>17日 小豆島北端を通過</p> <p>18日 丸亀沖に停泊、琴平へ参拝</p> <p>19日 三田尻口へ停泊</p> <p>20日 三田尻港へ入船</p> <p>23日 三田尻港出発</p> <p>24日 周防床波沖(山口県宇部市)に停泊</p> <p>25日 筑前門司港へ停泊</p> <p>26日 下関港へ停泊</p> <p>27日 下関港出発、モツレ島に停泊</p> <p>28日 石見沖を通過</p> <p>29日 江津港(島根県江津市)へ入港</p> <p>31日 江津港を出港</p> <p>4月 1日 浜田沖を通過</p> <p>2日 隠岐沖に到達</p> <p>3日 日本海上を東進</p> <p>4日 能登半島沖を通過</p> <p>5日 佐渡鷺崎を周り、多田港へ停泊</p> <p>6日 多田港(新潟県佐渡市)を出発</p> <p>7日 加茂港へ入船</p> <p>※1 ~ (17日間)</p> <p>24日 加茂港を出港、飛鳥港に停泊</p> <p>※2 ~ (12日間)</p> <p>5月 6日 飛鳥港を出港</p> <p>7日 牡鹿半島を通過</p> <p>8日 大島・小島沖を通過し、江差港入船</p> <p>~ (10日間)</p> <p>18日 江差港を出港</p> <p>19日 江差港に戻り停泊</p> <p>20日 江差港を出港、神田沖に停泊</p> <p>21日 大島・小島の間を通過</p> <p>~ (4日間)</p> <p>25日 函館港に入船</p> <p>※3 ~ (9日間)</p> <p>6月 4日 函館港を出港</p> <p>5日 函館港へ戻り停泊</p> <p>7日 函館港を出港</p>	<p>6月 8日 吉岡沖(北海道福島町)に停泊</p> <p>10日 江差港へ入船</p> <p>13日 江差港を出港、太櫓港へ停泊</p> <p>16日 太櫓港(北海道せたな町)を出港</p> <p>18日 奥尻島に停泊</p> <p>※4 ~ (6日間)</p> <p>24日 奥尻島を出港</p> <p>7月 4日 越前岬沖を通過</p> <p>6日 敦賀港へ入船</p> <p>18日 敦賀港を出港</p> <p>23日 臼ヶ浦島沖(兵庫県)を通過</p> <p>注1(反転)</p> <p>26日 鷺崎を通過し、新潟港へ停泊</p> <p>27日 新潟港へ入船</p> <p>31日 新潟港を出港</p> <p>8月 6日 小樽港へ入船</p> <p>※5 ~ (30日間)</p> <p>9月 7日 小樽港を出港、すぐに戻る</p> <p>10日 小樽港を出港</p> <p>注2 17日 隠岐西郷港へ停泊(6日間)</p> <p>25日 西郷港を出港</p> <p>26日 隠岐浦郷港へ停泊</p> <p>29日 浦郷港を出港</p> <p>10月 1日 越ヶ浜港(山口県萩市)へ入船</p> <p>2日 越ヶ浜港を出港</p> <p>3日 山口県沖に停泊(場所不明)</p> <p>4日 下関港へ入船</p> <p>12日 下関港を出港、マシン島沖に停泊</p> <p>13日 周防床波沖に停泊</p> <p>14日 苅田沖(福岡県苅田町)に停泊</p> <p>17日 苅田沖を出港</p> <p>18日 宝積に停泊</p> <p>19日 木江港(広島県大崎上島町)に停泊</p> <p>21日 木江港を出港</p> <p>22日 近海のメバリに停泊</p> <p>24日 同所を出港</p> <p>25日 多度津港へ入港</p> <p>27日 多度津港を出港し、下津井港に入港</p>
--	---

各港に於ける二三日は風待ち等と考えることができる。それ以上の滞船はそれなりの目的が、狙いがあったはずである。

この宝寿丸には北前船としては奇怪な航海をしている。これに関しては後ほど述べる。

由良と歴史関係を含め交流を続けている庄内由良の隣であり、そんなに離れていない庄内加茂に四月七日に着き十七日間滞船している(※1)。当然丹後由良との関わりのある(出羽三山を開いた蜂子の皇子)庄内由良の存在は知っていたことだろうから訪問している可能性はある。またここには海運に関わる竜神を守神とする有名な曹洞宗善宝寺があり参拝してお札を得ている。

加茂港は鶴岡城下の生活物資を陸揚げする港で、若狭小浜の豪商古川屋など十数軒の廻船問屋が有ったとの記述本もある。酒田には20kmもないくらい。酒田と目と鼻の先の飛鳥に十二日

間酒田近郊に計約一ヶ月も滞船している(※2)。北海道へ持つて行く米の仕入れが思うようにいかず手間取ったのか風待ちか？

飛鳥を出港した後は北海道に行き函館で九日間滞船(※3)

ここではニシン、昆布の仕入れを行ったか？ニシンと云えば江差であるが滞船と言えるほど日数はかけていない。その後常識的な日数で奥尻島(※4)を六月二十四日出港し、沖乗り航法で早々と帰港(登り)に入つて一気に七月二十三日には兵庫県沖白ヶ浦まで来ている。そこで何を思ったか急反転(注1)して新潟港へ入港し、さらに小樽港へ向かい八月六日入船して約一ヶ月滞船(※5)している。

滞船の理由は？実は以下の資料があるが解析できていない。宝寿丸航海日記(明治二十六年)(加藤家文書)に関わる資料として大福帳・当座帳・差引帳・大宝恵があり、これらを読

み解き理解すればこれらの理由が明らかになることと考えられ、府立丹後郷土資料館の稲穂氏に関係資料を見てもらったが、何故兵庫県でユーターンしたのか不明。しかし敦賀で昆布、ニシンカス売って商売が順調だったから、①兵庫沖まで早く到着したため欲を出し、もう一度北海道で仕入れて利益を増やそうとしたか。②又は江刺から兵庫沖まで帰ってきたが、北海道の商品が思ったほど仕入れることが出来ず、再度仕入れに戻ったか。どちらかのことが考えられる。小樽では約一ヶ月滞在している間、活発に仕入れを行つて(ニシンカス、数の子、昆布など)いる。小樽からの帰りにはなんとこの港にも寄らず隠岐まで昼夜兼行六日間で行っている。近代的な機器は磁石だけなのに驚くべき航海術。(注2)

「お詫び」

大きな間違いをしました。

先号(第七十四号)に難船絵馬「飛龍丸」奉納時期は明治十七年八月である。「寶求丸」・行方不明の「榮求丸」と同時期、同様の地域で嵐に会い難船したことが考えられる。と記述しましたが、「飛龍丸」は奉納されたのは明治十四年九月であり他二艘と同一の嵐で遭難してはいない。重大な間違いを犯したことをお詫びいたします。

「飛龍丸」の明治十四年の奉納時期の嵐の記録を前記資料で調べてみたが、北海道、大阪間で九月までに遭難するような嵐の記録はない。記録を調べると、明治十三年十一月二十七日富山県で暴風雨船舶五艘破壊とあり、この嵐で遭難した可能性がある。奉納絵馬は船頭が描いており船乗り家業の合間に描いて時間がかかった。その為奉納が一年後になったと考えられる。

テーマ “由良の浜”

お話を聞き、役員が文章化したものもあります

大人になってから、海水浴になかなか行けず。
昔は浜茶屋が軒を連ね、たこ焼き、イカ焼きなど食欲そそる匂いによく誘惑された。
食べて飲んで歩いて帰る。
夏の娯楽として最高峰の一つ。

PN 夏の宵

初めて由良海岸へ遊びに来たのは9歳の時。
都会っ子だったので、海辺の光景がただただ珍しく感じたことだけ記憶に残っています。
この20年後に由良へ嫁ぎ、すっかり田舎のオバチャンになろうとは思っていませんでした。

まさか！のミライ

小学校の水泳の授業で、水泳カードに親のハンコをもらい忘れて青くなったことが忘れられません。校長先生に「今日は泳がせれんなあー」と真顔で言われ、マジでビビりました。
家には「からかっときました(笑)」と電話があったそうです。

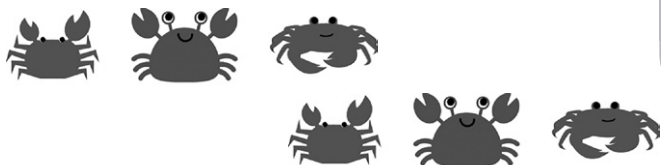
そして僕は途方に暮れる

海水浴客を横目に
キス釣りと缶ビール

ネーム 釣り人

家の横に馳出川という川があります。私が小さかったころは、畑からひいてきた大根や人参を洗ったり、夏には大きなスイカやお茶が冷やしてあったり、また由良川で採ってきたシジミが浸けてあった。ハゼやモクズガニもいた。生活に密着した川でした。
しかし、今は少し雨が降ると、上流から枯れた草木のゴミが流れてきて堆積する。掃除しても知らぬ間に堆積している。そしてそのゴミは、大雨の後、由良川へ、そして由良の浜へ。
ゴミはどこから来るのか？上流の畑や山が放置されているのも一つの原因では・・・

m・y



そういえば、観光祭にチャンバラトリ
オが来たんやで

ハリセン チョップ

中学生の頃、浜茶屋にゲーム機が置か
れるようになってインベーダーとか、
ギャラガとか やったなあ。200円握
りしめて遊びに行ったん思い出すわ。

BOB

子供の頃は夏になると毎日のように遊
んだ由良の浜。

大人になってからはめったに行かなく
なりました。

海はすぐそこにあるので、いつでも行
けると思うとかえって足が遠のいてし
まいます。

先日久しぶりに端から端まで歩いてみ
ましたが、とても良い運動になりリフ
レッシュできました。

ウォーキングをしたり、軽い体操をし
たり、ただ深呼吸をするだけでも立派
な運動になります。

また、遠くの景色を眺めるとパソコン
やスマホで疲れた目が休まります。

久しぶりに、由良の浜へ行ってみませ
んか？

ペンネーム「Y」

ちょっと由良浜の中央から外れた場所
やったけど“必殺仕事人”の映画のロ
ケが来たんや。

松坂慶子と藤田まことがおっただ「主
水〜！」って手エ振ったら「お前ら
勉強せえよ」って言われたなあ。

XYZ

夏休みになると、地区の子供会単位で
浜へ泳ぎに連れて行ってもらえまし
た。近所のお母さん達が2人1組で引率
と監視をしてくれて、自分の親が不在
でも海で遊べるのが嬉しかったです。

W・M

6月の由良の浜



たくさんの方からの寄稿ありがとうございました。
この記事が話題のきっかけとなれば嬉しく思います。

次回176号(令和4年11月発行予定)のテーマは

「 秋の思い出 」

由良地区以外での思い出も寄稿してください。

『由良って』

こんなもの作れるんだⅡ

山下 剛敏



春の芽吹きから、色とりどりの花が咲き乱れた新緑の時期を

通り過ぎ、五月には25度の夏日を

を超える日も出ておりました。水田には、由良ヶ岳から降りて

くる水が張られ、今年も田植えが

順調に行われたようです。その時期に合わせ、田んぼの

土手は勿論、畑の手入れも進む

のが春でした。もうひと踏ん張りの

暑い夏です。特に、今の由良で

耕作されている、蜜柑・柿・前回

掲載したオリーブなどの果樹園は、

草が伸びては草刈りをして、害虫の発生を抑える為の

つ、とても大切なことだと言えます。

今回は、由良の方なら殆どの方々が口

にしているであろう『由良みかん』

です。由良で作られる蜜柑の主流は「宮川早生・興津早生(オキツワセ)」

と言われる品種だそうです。昔の由良みかんは、酸っぱさ

が売り？と言うほど酸味が強かった

です。その歴史は思った以上に古く、

脇地区にて江戸末期に始まって

いたと言われています。その歴史の間に、

甘さを出して美味しい蜜柑にする為の

管理方法を学びに、一大生産地まで

長期間の研修へ行かれた方々が居た

そうです。そういった方々の努力が

実り、徐々に甘みと酸味のバランス

が取れた由良みかんが出来るよう

になりました。一時は百貨店の

バイヤーの目に留まり、人口の

多い百貨店に並ぶ美味しい蜜柑

を生産される方も居たほどです。

大阪に長く居た私からすれば、

百貨店に並ぶことの凄さが消費

者目線で実感できます。そんな蜜柑も



蜜柑狩りの子ども達

海外からオレンジ輸入の自由化

もきっかけの一つになり、徐々に

勢いを無くします。そんな中でも、

馴染みのある果実に！と地元生産者

で、「みかん狩り」という手法を取り、

遠方の方も手に来るように、

観光協会と協力し合う状況

もあります。その時に付いた名前が

【安寿みかん】の呼び名

だそうです。他には、蜜柑木の

オーナー制度を作るなど、



摘果ジュース

知恵を出して盛り上げた

そうです。今は、みかん狩り

組合としては僅かに四件だ

そうです。他にも生産を

続けたり、直売所も

続けられてますが、

年々少しずつ耕作放棄

地へと変わっています。

その流れとは逆に、

意外と地元由良の方

が知らない、摘果みかん

を使った『つかジュース』

を新たに商品化・販売

されたり、30代の若い

蜜柑農家の担い手が

現れたり、注目が高

まる傾向もあります。

個人的な見解ですが、

自家消費用に数本育

てるには、日当たり

風通しの良い場所

であれば、柑橘類

の管理は比較的し

易いように感じま

す。冬のビタミン

補給と美味しさが、

身体に有難い果物

です。

◎次回はトマト

についてです。

協力…みかん狩

り組合

平成25年(2013年)3月 140年の歴史の幕をとじた由良小学校
 今年度は、閉校してから10年目になります
 由良小学校の「校歌」覚えていますか
 みんなで歌ってみませんか



由良小学校 校歌

大垣憲太郎作詞
 杉本秀治作曲

♩ = 100 ~ 112
 mf

1 あさひにはゆる ゆらのみね
 2 ひいずる やまのすかたもて

ばんははるけき にほんかい
 はてなきうみの ところもて

せいきあふーるーる このさとーに
 ひびにはげーみーマ たゆみなーく

おいたつわれーら さち おおし
 まなぶわれらーに のぞみあり

一、朝日に映ゆる
 由良の嶺

二、日出づる山の
 姿もて

果はなまゝ海の
 心もて

日々なみま
 弛みなく

学ぶ我らに
 誇りあり

生い立つ我ら
 幸多し

正気溢るる
 この里に

万波遙けき
 日本海

由良小学校には
こんな歌も
ありました (^^♪)

みんなはまの子

尾関 葵 作詞
田畑 薫 作曲



みんなはまの子 (はまの子の歌)

尾関 葵 作詞
田畑 薫 作曲

- 一、白い砂浜 青い海
朝の光が 澄んでいる
なぎさで歌う 浜の歌
みんな浜の子 明るい子
- 二、松は緑に 空高く
吹くよ浜風 さわやかに
手をとりあって 励みあう
みんな浜の子 仲よい子
- 三、胸一ぱいに いき吸って
そろう足なみ はつらつと
スクラムくんで さあ行こう
みんな浜の子 元気な子

安寿亭 新天地へ
安寿亭スタッフ一同

「由良の戸千軒長者の館」にて約10年間営業しておりました安寿亭が、4月よりマンションセバーク由良管理組合様のご厚意により1階のレストラン跡へ移転となりました。駅前のお店と比べ、ゆったりとした店内からは海を眺めることもでき、今まで以上にくつろいだ時間を過ごしていただけるかと思えます。

営業は毎週木、土曜日の11時から14時となり、うどん、バラ寿司、惣菜、コーヒー等の提供を中心に、地元野菜の販売も行っております。

多くの方にご利用いただき、地域の交流の場として賑わえば大変うれしく思います。皆さまのご来店をお待ちしております。

編集後記

今回、公民館だよりのテーマは「由良の浜」でしたので、由良の浜と健康作りについて記します。

由良に住んでいて由良の浜や海に馴染んでいない。私もその一人です。これではいけないと思っっているのですが、遠ざかります。

今年の夏こそは、海に浸かったり、波打ち際を裸足で歩いたりしたいと思っています。

海水はあせもにも効きます。海の中を歩くと良い運動になります。波打ち際にパシャパシャと濡れた砂浜を歩くと気持ちがいいものです。暑さを忘れるひとときを味わうことができます。

由良に住んでいるのだから、この贅沢を実行に移そうと思っっています。

千坂 記